

年、服田健久、栗木雄三、
岡陸一、岡筑友、岡野雄、
石川伊予、松波文友、森上
力三郎、二條、十五、三

辯論の焦點は何?

朝野の耳目を驚動した
阿片問題公開開廷

阿片問題の公開開廷は、朝野の耳目を驚動した。阿片問題の公開開廷は、朝野の耳目を驚動した。阿片問題の公開開廷は、朝野の耳目を驚動した。

飛んだ 側枝を食った

森下卯平金
山に上る

屠牛場の窓から見た 労働者の懷具合

物價は低減したが労働者は
下らぬから非常に好景

府管住宅の 居住者の職業別

著者は候補者として
明大第に貸與する

江漢 欄干に佇む女

我手に歸つて来た男
怖ろしい戀の報復

猛虎を訪れて

森下卯平金
山に上る



婦人と社會

職業婦人のエピソード
人間としての若き女性

大正館

見逃すな
連日満員

大正館

見逃すな
連日満員

大正館

見逃すな
連日満員

大正館

見逃すな
連日満員

大正館

見逃すな
連日満員

演藝案内

大正館
見逃すな
連日満員

大正館
見逃すな
連日満員

大正館
見逃すな
連日満員

大正館
見逃すな
連日満員

大正館
見逃すな
連日満員

大正館
見逃すな
連日満員

大正館
見逃すな
連日満員

大正館
見逃すな
連日満員

大正館
見逃すな
連日満員

日本養鶏社主小須賀一郎氏秘伝の公開

鶏の飼育法、産卵法、病気の治療法など、秘伝の公開。日本養鶏社主小須賀一郎氏の秘伝が公開された。鶏の飼育法、産卵法、病気の治療法など、秘伝の公開。

電波療器

電波療器の広告。電波療器の効用、使用方法などについて説明。電波療器の効用、使用方法などについて説明。

大正館

大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。

大正館

大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。

大正館

大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。

大正館

大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。

大正館

大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。

大正館

大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。

大正館

大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。

大正館

大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。大正館の演劇案内。見逃すな、連日満員などの宣伝。

太古以来の仙境人間の眼前に展開す

黙然として立てる 留聲機が

月光を浴びて夢よりも深く深淵に
影を垂れて繪畫そのまゝの景致

特派員 田邊 稜 鳥

「黙然として立てる」
「留聲機が」
「月光を浴びて夢よりも深く深淵に」
「影を垂れて繪畫そのまゝの景致」
「太古以来の仙境人間の眼前に展開す」
「黙然として立てる」
「留聲機が」
「月光を浴びて夢よりも深く深淵に」
「影を垂れて繪畫そのまゝの景致」
「太古以来の仙境人間の眼前に展開す」



奉祝會場竣工

百名の藝妓が妓生が舞臺
元町は赤穂四十七士に扮装

御召艦動静

九月三日御召艦が東京湾を航行する
九月四日御召艦が東京湾を航行する

舟一日鹿兒

島沖御通過
鹿兒島沖を通過する

食

食料の供給
食料の供給

電車に轢

電車に轢かれた
電車に轢かれた

悪なと臺灣海峡御通過あり

利根艦、御通過あり
利根艦、御通過あり

御機嫌愈麗はこ

利根艦、御機嫌愈麗はこ
利根艦、御機嫌愈麗はこ

雨歌み天氣晴

雨歌み天氣晴
雨歌み天氣晴

又しても強盗騒ぎ

又しても強盗騒ぎ
又しても強盗騒ぎ

食料車の貸切り

食料車の貸切り
食料車の貸切り

強盗に逢

強盗に逢
強盗に逢

先づ平穩無事か

先づ平穩無事か
先づ平穩無事か

運動

大母車北行
大母車北行

今日明日後日

今日明日後日
今日明日後日

五拾銭の品

五拾銭の品
五拾銭の品

無代

無代
無代

紙幣

紙幣
紙幣

金

金
金

銀

銀
銀

銅

銅
銅

鉄

鉄
鉄

鉛

鉛
鉛

錫

錫
錫

鋅

鋅
鋅

銅

銅
銅

鉄

鉄
鉄

鉛

鉛
鉛

錫

錫
錫

鋅

鋅
鋅

モリス友仙

九月一日より 五日間

大市一尺 五拾五銭

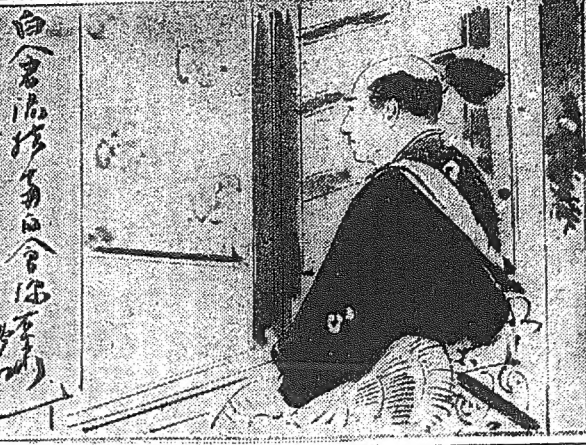
京坂本町 電話一五七

〇まる二呉服店

小説 第七十四回

小金井河津の戦い

小金井河津の戦いは、戦国時代、徳川家康が豊臣秀頼と豊臣秀吉の軍と戦った重要な戦いである。この戦いは、徳川家康の勝利によって、豊臣氏の勢力が弱体化し、徳川氏が天下統一の道を開いた。この小説は、この戦いの激戦を描き、登場人物の活躍と戦いの様子を詳しく述べている。



白雲流石の金井河津

東洋殖産問題

東洋の殖産問題は、日本が東洋の資源をどのように開発し、管理するかという問題である。この問題は、日本の経済発展と外交政策に大きな影響を与えている。この文章は、この問題の重要性と解決策について論じている。

景色が好いから

実川 延若 著

本書は、自然の美しさと人間の生活の調和について述べている。作者は、自然の恵みを受け、人間が自然と共生することの重要性を説いている。本書は、読者に自然の美しさを伝えるだけでなく、人間が自然に対して持つ責任についても考えさせる内容となっている。

九月一日

九月一日は、戦国時代、徳川家康が豊臣秀頼と豊臣秀吉の軍と戦った重要な戦いである。この戦いは、徳川家康の勝利によって、豊臣氏の勢力が弱体化し、徳川氏が天下統一の道を開いた。この小説は、この戦いの激戦を描き、登場人物の活躍と戦いの様子を詳しく述べている。

九月一日

九月一日は、戦国時代、徳川家康が豊臣秀頼と豊臣秀吉の軍と戦った重要な戦いである。この戦いは、徳川家康の勝利によって、豊臣氏の勢力が弱体化し、徳川氏が天下統一の道を開いた。この小説は、この戦いの激戦を描き、登場人物の活躍と戦いの様子を詳しく述べている。

今が御仕入時!

多めに不拘早速御用命を!!

冬メリヤス

特価品多数準備あり

品目: シャツ、靴下、手袋、オーバー、首巻、肩掛、綿毛製品

島村英三商店

大阪市東区南町渡邊筋南入

電話: 二二二八

婦人病に用ひる靈妙なる効驗あり

人參二倍力強壯劑

淫羊藿エキス

通稱三枝九葉草エキス

五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

毛髪の色澤を深黒且艶麗ならしむる

小平理學博士推薦 冷製製法採用精製油

ミツワ固煉油

油椿ワレ

油椿ワレ

油醬上最

港川仁鮮朝

高杉

場造醸油醬杉高

平南自動車商會

平南自動車商會

山邑酒造株式會社

山邑酒造株式會社

はりん病

はりん病

婦人病

婦人病

有田ドラッグ

有田ドラッグ

大阪商船出帆											
船名	船種	出帆日	出帆時刻	船名	船種	出帆日	出帆時刻	船名	船種	出帆日	出帆時刻
大阪丸	客船	九月十一日	午後五時	大阪丸	客船	九月十二日	午後五時	大阪丸	客船	九月十三日	午後五時
大阪丸	客船	九月十四日	午後五時	大阪丸	客船	九月十五日	午後五時	大阪丸	客船	九月十六日	午後五時
大阪丸	客船	九月十七日	午後五時	大阪丸	客船	九月十八日	午後五時	大阪丸	客船	九月十九日	午後五時
大阪丸	客船	九月二十日	午後五時	大阪丸	客船	九月二十一日	午後五時	大阪丸	客船	九月二十二日	午後五時
大阪丸	客船	九月二十三日	午後五時	大阪丸	客船	九月二十四日	午後五時	大阪丸	客船	九月二十五日	午後五時
大阪丸	客船	九月二十六日	午後五時	大阪丸	客船	九月二十七日	午後五時	大阪丸	客船	九月二十八日	午後五時
大阪丸	客船	九月二十九日	午後五時	大阪丸	客船	九月三十日	午後五時	大阪丸	客船	十月一日	午後五時

朝鮮銀行活躍

鮮銀と金建問題

朝鮮銀行が斯の如き財務變動に際しても其の施設を誤まらず者へんとして牛島金融機關の目的達成の爲に好成績を挙げ居るは歴代總裁の統督宜敷き一つは從業者の熱誠勤勉に依るの結果たるは勿論である近來世上の問題となつた彼の大連金庫問題と附帶して朝鮮銀行との間に蜚説を全く流布するものあるやに傳ふるも這は全く虚構の言にして毫も信すべきものに非らず元より之が施行命令は政府官意の權限なれば一銀行たる朝鮮銀行の左右すべき筋合でないのは近く開かれた總會の席上で美濃部總裁の演說中にも明確にしてあるのでも分るではないか左に本期の利益金分配案を重複を顧みず摘載して愈々其の基礎の確固たるの證を左爲すは亦無爲の事でもあるまい。

一 金 貳 千 八 百 七 拾 五 萬 四 千 五 百 七 十 九	貳 錢	當 期 總 益 金
一 金 貳 千 五 百 貳 拾 參 萬 八 千 拾 壹 圓 拾 四	差 引	當 期 總 損 金
參 百 五 十 壹 萬 六 千 四 百 九 十 六 圓 七 拾		當 期 純 益 金
錢		

金八拾萬圓	損失補填準備金
金八萬圓	配當平均準備金
金拾貳萬圓	役員賞與金及交際費
金百貳拾萬圓	舊株配當金(年六分)
金參拾萬圓	新株配當金(年四分)
金八拾萬圓	舊株再配當金(年四分)
金貳拾萬圓	新株再配當金(年四分)

朝鮮銀行は朝鮮に於ける國庫金の出納、銀行券の發行其他中央銀行の業務は從來株式會社第一銀行京城總支店をして之を取扱はしめたるが財政の膨脹經濟の發展に伴ひ別に金融の中樞たる中史銀行設置の必要を認め明治四十二年十月韓國銀行を設立し第一銀行より中央銀行として業務を繼承し同年十一月より業務を開始せるが併合後四十四年三月朝鮮銀行法の發布と共に同行は朝鮮銀行と改稱した現在資本金は二千萬圓にして中央銀行として國庫金の出納、銀行券の發行を爲すの外左の業務を營むて居る

- 一、爲替手形其の他商業手形の割引
- 二、平常取引する 諸會社銀行又は商人の爲手形代金の取立
- 三、爲替及荷爲替
- 四、確實なる擔保ある貸附
- 五、諸預り金及當座貸越勘定
- 六、金銀貨、貴金屬及諸證券の保護預り
- 七、地金銀の買賣及貨幣の交換
- 八、信託の業務
- 九、尙政府の認可を受くるときは公共團體に對し無擔保貸附を爲すことを得營業の都合に依りては國債證券、地方債券其他確實なる有價證券を買入るゝことを得るものことす

朝鮮銀行は本店を京城に置き朝鮮内地各支店出張所を設け尙爲替の調節及爲替易助長の爲め内地にありては東京、大阪、神戶、滿洲に在りては安東縣、大連、奉天、長春、哈爾濱、四平街、開原、營口、吉林、龍井村、遼陽、鐵嶺、旅順、鄭家屯、支那に在りては青島、上海、天津、大連、

愈々皆

の準
御賄